様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１６１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２７７８

研究課題名（和文）文献学的地方語史研究のための地方寺院所蔵文献を主対象とする調査研究

研究課題名（英文）Investigation of Local Temple Documents for Literary-Historical Studies of Regional Dialects

研究代表者
原　卓志（Hara, Takuji）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：００１７３０６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：まず、徳島県の無尽山地蔵寺（板野町）・国伝山地蔵寺（小松島市）・瑞龍山正興寺（鳴門市）・東明山童学寺（石井町）の文献調査を行い、無尽山の所蔵文献目録（全10冊）、国伝山の所蔵文献目録〔追補版〕を刊行した。そして、近世徳島における真言宗僧侶の修学・教授の実態を明らかにした。さらに、『三宅松庵日記』（徳島県立図書館蔵）を解読し、近世の徳島言葉を収集・分析した。
　また、金陵山西大寺（岡山市）、籾山黌（津山市）、安国寺不動院（広島市）、西本願寺（京都）の文献を調査し、真宗地方寺院僧侶の地元での修学、本山学林における修学、さらに、僧侶による庶民・武士教育の実態について、具体的な事例によって解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、近世僧侶の修学・教授実態を究明し、諸活動の中核となる寺院と僧侶の存在を浮かび上がらせた。また、地方人や僧侶の書き物から、当時の地方語と考えられる音韻事象・文法事象、様々な語詞を収集した。これによって、地方の寺院や諸機関に蔵された膨大な近世文献資料群が、地方語研究や近世僧侶の修学・教授実態などの研究資料として有効に活用し得るものであることを明らかにし、これまで手薄であった近世・地方に関する本格的な研究の扉を開いた点に意義がある。
　また、調査対象寺院について作成・公開した所蔵文献目録は、これに基づいた問い合わせや、原本調査の依頼を受けるなど、関連する学問分野で利用されつつある。

研究成果の概要（英文）：First, we conducted a literature survey at the Mujinzan Temple, the Kokudenzan Temple, the Zuiryuzan Temple, and the Tomeizan Temple, all located in Tokushima Prefecture. We published the complete list of documents held by Mujinzan and a supplement to the list of documents held by Kokudenzan. Through this survey, we have revealed the reality of the learning and teaching of Shingon Buddhist monks in Tokushima during the early modern period. Furthermore, we deciphered the "Miyake Shoan Diary" (held in the Tokushima Prefectural Library) and collected and analyzed the Tokushima dialect of the early modern period.
Besides, we investigated documents held at the Kinryozan Temple in Okayama City, the Momiyama-ko in Tsuyama City, the Fudoin Temple in Hiroshima City, and the Nishi Hongan-ji Temple in Kyoto to clarify the reality of the learning of monks in the Jodo sect at local temples, the main temple's school, and the education of commoners and samurai by monks through specific examples.

研究分野：日本語学

キーワード：地方語史研究資料　教育・学習史研究資料　地方史研究資料　僧侶の修学と教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

地方語の歴史研究は、言語地理学的な研究によって大きな成果をあげてきた。しかし、言語地理学的研究は、現在の言語事象における地理的分布を基に、過去の言語実態を推定するものであり、いわば状況証拠を積み上げることによって組み立てられたものであると言える。このような、言語地理学的研究の弱点を補うためには、物的証拠を丹念に拾い集めて論を固める必要がある。この物的証拠（過去の言語事象）が残されているのは、文献をおいて他には考えにくく、地方語史研究の深化を図るためには、文献学的な地方語史研究が欠かせない。

このような文献学的研究の重要性・有効性については、夙に柴田武（1965）、迫野虔徳（1970）などによって説かれてきた。そして、文献学的地方語史研究に有効な具体的な資料として、迫野（1970・1982）や小林隆（1986）が、古文書・古記録、農書の類を提案したほか、小林芳規（1992）は角筆文献、原（2011）は聞書きの類を用いた研究の可能性を指摘した。しかし、このように文献学的研究の重要性・有効性が説かれてきたにもかかわらず、現在もなお、文献学的研究が、活発に行われているとは言えない状況である。これは次のような難しさが原因となっていると考えられる。まず、各地に残される膨大な量の様々な性格を有する古文書や、古記録（日記など）・聞書き・角筆文献などは、書写されたものであるために、基本的には書記言語が用いられる。そのような文献群の中から、口頭語的な言語事象を豊富に含んだ、研究に堪え得る文献を探し出すことには、多大な労力を要するものである。時間をかけて調査しても、研究資料として利用できる文献を見出せなかったということも往往にしてあり得る結果である。それだけの労力を費やす価値があるのかという疑問が、文献調査をためらわせるのである。また、文献の多くが写本であり、原本の解読が不可欠であることも、文献資料の活用を抑制する要因となっている。さらに、見出された古文書や古記録といった文献が、どのような人間によって、どのような目的で書写されたのかといった、当該文献の性格についての位置づけに困難を伴うこともマイナス要因として働いている。しかし、文献学的な研究をなおざりにしたままでは、今後の地方語の歴史研究の深化はない。様々な困難があるとしても、それを乗り越えて地方語史研究資料を開拓する必要がある。本研究は、あえてそれらの困難に立ち向かい、新たな文献資料を発掘し、地方語史研究を推進することを目指した調査研究である。

【参考文献】

小林　隆（1986）：「農書からみた近世の方言分布―〈糠〉と〈籾殻〉を例に―」『国語学』140

小林芳規（1992）：「方言史料として観た角筆文献」『国語学』171

迫野虔徳（1970）：「方言史料としての古文書・古記録」平山輝男博士還暦記念会編『方言研究の問題点』明治書院

迫野虔徳（1982）：「『梅津政景日記』―江戸時代初期の東国武士のことば―」『文学研究』79

柴田　武（1965）：「言語地理学の方法と言語史」『ことばの研究』２

原　卓志（2011）：「地方語史研究資料として見た学習記録―臨江山地蔵寺蔵『孟子聞録』を例として―」『鳴門教育大学研究紀要』26

２．研究の目的

地方語史研究を推進するための新たな文献資料の発掘と、発見された文献を用いた地方語史研究を行うことを主たる目的としつつ、日本語史・教育史・日本近世史・日本仏教文学を専門とする研究者の連携・協力のもと、以下の調査研究を実施する。

①地方寺院に所蔵される古文書・典籍についての悉皆調査、および公的機関に所蔵される古文書・古記録などの調査から、地方語史研究資料を見出し、その言語事象についての分析を行う。また、平行して②予備調査によって、口頭語的な言語事象が多く抽出できると予想された古記録（日記）の解読作業を進め、口頭語的な言語事象の抽出と、その分析を行う。さらに、③、調査対象文献について、日本語学的な視点だけではなく、教育史・日本近世史、文学受容など様々な視点から、研究資料としての価値を文献に付与することを目指す。それによって、地方語史研究資料の発見のみにとどまらず、調査対象寺院や僧侶の教育活動・修学活動や、地域社会における寺院・僧侶の活動実態など、地方の教育・学習史研究や仏教史などの歴史研究において価値ある資料群を発掘し、分析する。

３．研究の方法

（１）地方寺院所蔵文献の悉皆調査と、所蔵文献目録・索引の作成・刊行

本研究では徳島県の真言宗寺院（無尽山地蔵寺、国伝山地蔵寺）において所蔵文献の悉皆調査を実施し、調査対象寺院に所蔵される文献の全体像を把握する。それとともに、仏教史・教育史を含め、地方の歴史研究にかかわる様々な分野の研究のための基礎資料として活用可能な情報

を掲載した所蔵文献目録と、文献目録を基にした索引（文献索引・人名索引・寺社名索引）を作成する。所蔵文献目録は、悉皆調査と平行し、調査の終わった文献から作成に着手し、紙媒体によって分冊形式で順次刊行する。また、鳴門教育大学機関リポジトリを通してウェブ上にも公開する。索引編は、目録完成後に作成・刊行し、ウェブ上に公開する。

（２）公的機関所蔵の古文書・古記録についての調査

徳島県立図書館・同文書館に所蔵された古文書・古記録のうち、予備調査で口頭語的な言語事象を確認した『三宅松庵日記』（1777～1781 年の日記）を中心に解読（翻刻）を進める。解読後にはその全文を公表することを念頭に置き、研究期間内に第一次読解の完了を目指す。また、岡山県・広島県等の公的機関に所蔵される文献についての調査も実施する。

（３）地方語史研究資料に基づいた分析

本研究における寺院の悉皆調査や、公的機関所蔵の古文書・古記録の調査の過程で、口頭語的な言語事象を抽出し、寺院文献などの他の文献から抽出された言語事象とともに分析し、その結果をまとめて紀要等をとおして報告する。

（４）調査対象寺院の歴史等、地方の歴史研究資料についての考察

悉皆調査によって得られる情報には、原（2015・2016）に指摘したように、これまでの市町村史などで明らかにされてきた歴史を補い、寺院や僧侶の修学・教授活動などの実態を明らかにするものが多く含まれている。本研究では、地方語史研究資料の背景を明らかにするために、調査対象寺院や僧侶の活動実態についても考察する。また、地方における寺院・僧侶の修学・教授活動や地域社会における寺院・僧侶の活動など、地方の歴史研究において有益な資料について、これを翻刻して紹介するとともに、研究成果をまとめて発表する。

【参考文献】

原　卓志（2015）：「国伝山地蔵寺における「伝法灌頂」について」『鳴門教育大学研究紀要』30

原　卓志（2016）：「国伝山地蔵寺蔵『國傳山并末寺寺家成立由緒支配宮等書上草案』―解説と翻字本文―」『鳴門教育大学研究紀要』31

４．研究成果

（１）地方寺院所蔵文献の悉皆調査とその成果

徳島県の真言宗寺院である無尽山地蔵寺（板野郡板野町）において所蔵文献の悉皆調査を実施し、令和３年１月に完了した。調査した文献については『無盡山莊嚴院地藏寺所藏文獻目録〔第１冊（590 頁）、第２冊（536 頁）、第３冊（559 頁）、第４冊（534 頁）、第５冊（411 頁）、第６冊（560 頁）、第７冊（500 頁）、第８冊（400 頁）〕』として私家版で刊行するとともに、鳴門教育大学機関リポジトリをとおしてウェブ上に公開した。さらに８分冊に収録された文献名、および各文献に記された奥書や印記等に見られる人名・寺社名についての索引を作成し、『無盡山莊嚴院地藏寺所藏文獻目録〔索引１（352 頁）〕』『同〔索引２（440 頁）〕』として刊行し、同リポジトリからウェブ上に公開した。また、同じく真言宗寺院である国伝山地蔵寺（小松島市小松島町）において、新たに発見された文献を調査し、『國傳山寶珠院地藏寺所藏文獻目録〔追補（182 頁）〕』を作成し、これについても同リポジトリからウェブ上に公開した。作成した文献目録を基に、所蔵文献に関する問い合わせや、原本調査の依頼があった。これらの問い合わせや依頼は、作成した目録が、関連する学問分野の研究者の間で利用されつつあることを示しており、様々な分野の研究のための基礎資料として活用可能な情報を掲載した所蔵文献目録作成という所期の目的を達成したものと考えられる。

無尽山地蔵寺の悉皆調査終了後、調査した所蔵文献の分析によって、徳島における真言宗新安流の基幹寺院として浮かび上がってきた瑞龍山正興寺（鳴門市鳴門町）と東明山童学寺（名西郡石井町）の二ヶ寺での悉皆調査に着手し、現在も継続中である。

徳島県以外の寺院では新型コロナウイルス感染症の流行などで、悉皆調査を実現することができなかったが、金陵山西大寺（岡山市）所蔵文献のほか、安国寺不動院（広島市）所蔵文献の調査を実施するともに、西本願寺（京都）所蔵文献など広く文献調査を行い、近世の真宗寺院・僧侶の修学・教育実態の解明に取り組んだ。

（２）公的機関所蔵の古文書・古記録調査とその成果

本研究では主として徳島県立図書館に蔵される『三宅松庵日記』の解読を進めた。『三宅松庵日記』は、安永６（1777）年５月から天明元（1781）年６月に至る日記で、第１巻から第 46 巻（うち巻 23・24〈安永８年８月・９月〉と巻 31～33〈安永９年４月～６月〉を欠く）の 31 冊が徳島県立図書館に蔵されている。研究期間中における全冊の読解を目指して、読解作業を進めた。その結果、第１冊から第 27 冊についての第１次読解を終えたが、全冊の読解には及ばなかった。また、第１次読解では意味不明部分を多数残すこととなった。今後は、本日記の翻字本文を作成・公開するべく、第１次読解を早急に全冊に及ぼすとともに、注釈作業を含めて、日記全体を精読する第２次読解を進める予定である。

以上のほか、岡山県津市の籾山黌関係文書、広島県立文書館所蔵の不動院資料の調査を行ったが、こちらもこの度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を蒙って、十分な調査を尽くすには至らなかった。

（３）文献資料に基づいた地方語分析とその成果

江戸時代の徳島言葉として、『三宅松庵日記』から抽出された「ぶんぶ」「しるい（じるい）」「わやく」「こわる」「しとる」「せせる」「ほっこり（と）…打ち消し」といった語を取り上げて、現行の徳島方言辞典の記述や、『日本国語大辞典』などの記述を参照しつつ分析した。これらの語が当時の地方語であるとするための手続きの問題が課題として残されるが、安永期徳島言葉であることを明らかにした。ここに取り上げた言葉以外にも、当時の口頭語であると考えられる語が抽出されることから、『三宅松庵日記』は、地方語史研究資料として有効な文献であると結論づけられる。また、徳島県海陽町宍喰浦で現在も用いられている方言風位語「ワイタ」（北東から吹く強風）の語源について、同町の一乗山惣持院大日寺所蔵『新撰古暦便覧』に書き入れられた寛政３（1791）年８月 20 日の記述に見られる「脇北風（ワキタ）」を基に考察した。現在各地に残る「ワイタ」が、北を挟んで東西にかかった方向から吹く強風であることを確認した上で、「脇＋北」という方角がその語源であることを述べ、現代の「ワイタ」が、「ワキキタ」→「ワキタ（ワギタ）」→「ワイタ」という変化によって生じた語であることを論じた。そして、地方語史研究を推進するためには、当該地域に生きた人々の用いた言葉に関するデータを蓄積することが第一の課題であること。またその場合、たとえ断片的なものであっても、丹念に拾い集めることが重要であること。そして蓄積されたデータを基に、一つひとつの言葉について、その意味や用法を周辺地域の言葉や、当時のいわゆる共通語などと比較検討することが求められることを述べた。

（４）僧侶の修学・教授活動、地方寺院の歴史に関する分析と成果

悉皆調査によって得られた聖教の書写奥書や伝領記、また、灌頂記録や印信、血脉等の情報を総合することで、江戸時代の真言宗僧侶個人に関する修学・教授活動実態の詳細を明らかにすることができた。まず、国伝山地蔵寺住職のうち、初代長見から第 16 代宥国までの修学・教授活動実態について、文献の書写奥書や伝領記、血脉を資料として明らかにした。この後の第 17 代長道・第 18 代宥雄（寛黙）、第 19 代宥義の修学・教授活動についても分析を進め、論考として発表する予定である。また、瑞龍山正興寺住職の修学実態（特に新安流の相承）について、国伝山地蔵寺に蔵された血脉２種と比較しつつ分析し、血脉に記載される相承と、修学実態から明らかになる相承とにズレがあることを明らかにした。さらに、無尽山地蔵寺所蔵の縁起関係文書を用いて、資料の少ない中世から近世初頭の無尽山地蔵寺住職の修学等の事績について明らかにした。

また、浄土真宗僧侶を取り上げて、僧侶養成教育の実態把握に努め、地方出身僧が中央本山学校（学寮）で修学する意味を考察し発表した。また、西本願寺学林（京都）の学籍簿にあたる『大衆階次』を主たる資料として、徳島県の浄土真宗寺院から西本願寺学林に出向いて学修に取り組んだ修学僧について把握し、修学僧の出身寺院, 修学期間, 身分などを考察し、その修学実態を明らかにした。さらに、浄土真宗僧侶の活動を、寺院間ネットワークの観点から把握するとともに、その活動を私塾学習者なども含めた地域学習史に位置付けることに取り組み、武士の文字学習における寺院の役割や、庶民の教育・教化に果たす僧侶（とりわけ旅する知識人としての旅僧）の意義などについて明らかにした。これに加えて、近世私塾の事例として、旧美作国（津山市）の籾山黌（漢学・医学）の門人帳や塾規定（津山・仁木家文書）を調査し、地元寺院の僧侶が入門していることを確認・把握した。

このほかに寺院の歴史研究として、無尽山地蔵寺の所蔵文献を用い、教団（高野山）に掌握されつつも、中央寺院を本寺としない無本寺寺院であった無尽山地蔵寺の本末関係の形成過程について、藩や、高野山正智院（法流）との関係とからめながら解明した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 梶井一暁	４．巻 179巻
２．論文標題 近世阿波国の修学僧に関する基礎的考察―西本願寺学林の事例から―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	６．最初と最後の頁 15－25頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/bgeou/63235	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 町田哲	４．巻 37巻
２．論文標題 近世前期阿波国真言宗寺院における本末関係の形成―五番札所・無尽山荘厳院地蔵寺を中心に―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 268－290頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 原卓志	４．巻 37巻
２．論文標題 無尽山地蔵寺住職に関する覚え書き―中世から近世初頭の住職を中心に―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 192－209頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 原卓志	４．巻 36巻
２．論文標題 正興庵歴代住職の安祥寺流相承と国伝山地蔵寺所蔵の血脉二種	５．発行年 2021年
３．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要・人文社会科学編	６．最初と最後の頁 177－196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 梶井一暁、尾上雅信、髙瀬淳、小林万里子、平田仁胤	4．巻 176号
2．論文標題 教員養成に関する比較発達史研究の試み(3)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6．最初と最後の頁 23－36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 町田 哲	4．巻 35
2．論文標題 近世後期の焼畑小作と村社会―阿波国那賀郡木頭村を中心に―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	6．最初と最後の頁 261-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 梶井一暁	4．巻 301
2．論文標題 近世浄土真宗修学僧に関する一考察― 農民子弟の学寮修学と寺院住持―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 史学研究	6．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 原卓志	4．巻 34
2．論文標題 国伝山地蔵寺蔵『異船一條并大小名等諸事傳聞噂而已之記』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要（人文社会科学編）	6．最初と最後の頁 153-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 梶井一暁	４．巻 １６６
２．論文標題 文字学習の場としての近世寺院に関する一考察	５．発行年 2017年
３．雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	６．最初と最後の頁 1－12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 原卓志	４．巻 33
２．論文標題 文献学的地方語史研究資料の発掘と言語事象の解釈－『三宅松庵日記』の資料的価値と風位呼称「ワイタ」の語源をめぐって－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要（人文社会科学編）	６．最初と最後の頁 277－294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 原　卓志
２．発表標題 国伝山地蔵寺住侶の修学と典籍
３．学会等名 寺院資料調査研究報告「寺院資料調査の実状」
４．発表年 2019年

１．発表者名 町田 哲
２．発表標題 行き倒れへの着目と課題－四国遍路研究の立場から－
３．学会等名 部落問題研究者全国集会・歴史Ⅰ分科会
４．発表年 2019年

１．発表者名 町田哲
２．発表標題 徳島における歴史資料の保全活動と地域史研究
３．学会等名 文化財保存修復学会公開シンポジウム「南海トラフ地震に向けた文化財の防災・減災―四国４県の取り組みから考える―」
４．発表年 2018年

１．発表者名 原卓志
２．発表標題 地方語史研究資料の発掘
３．学会等名 鳴門教育大学国語教育学会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

１．著者名 辻佳伸、近藤大器、早渕隆人、黒崎仁資、中野真弘、宮田育典、森兼三郎、町田 哲、大石雅章、長谷川賢二	４．発行年 2019年
２．出版社 徳島県・徳島県教育委員会	５．総ページ数 334
３．書名 「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書12 無尽山荘厳院地蔵寺	

１．著者名 牧野和夫、末柄豊、苅米一志、海野圭介、中山一麿、原卓志、平川恵実子、高橋悠介、武田和昭、落合博志、柏原康人、中川真弓	４．発行年 2020年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 404
３．書名 寺院文献資料学の新展開　第５巻「中四国諸寺院Ｉ」	

１．著者名 佐々木勇、刀田絵美子、坂水貴司、土肥新一郎	４．発行年 2020年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 642
３．書名 龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版　翻刻および総索引	

〔産業財産権〕

〔その他〕

無盡山荘厳院地蔵寺所蔵文獻目録〔第７冊〕
https://naruto.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28979&item_no=1&page_id=13&block_id=40
無盡山荘厳院地蔵寺所蔵文獻目録〔第８冊〕
https://naruto.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28980&item_no=1&page_id=13&block_id=40
無盡山荘厳院地蔵寺所蔵文獻目録[第６冊]
https://naruto.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28622&item_no=1&page_id=13&block_id=40
無盡山荘厳院地蔵寺所蔵文獻目録〔第４冊〕
https://naruto.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28152&item_no=1&page_id=13&block_id=33
無盡山荘厳院地蔵寺所蔵文獻目録〔第５冊〕
https://naruto.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28153&item_no=1&page_id=13&block_id=33

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	梶井　一暁 (Kajii Kazuaki) (60342094)	岡山大学・教育学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	町田　哲 (Matida Tetu) (60380135)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	
研究分担者	刀田　絵美子 (Toda Emiko) (50632692)	比治山大学・現代文化学部・講師 (35410)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関